

**委員会だより**

<4月8日(日) 9名出席>

**【1】財務報告：01年3月度決算報告 ( )内:01年度年間予算**

	00° 収入累計	00° 支出累計	収支差額
一般会計	2,252,053 (6,073,380)	1,244,359 (5,297,000)	1,007,694 (776,380)
建設会計	644,478 (1,876,674)	315,000 (1,817,000)	329,478 (59,674)
愛の献金	446,933 (617,864)	101,420 (320,000)	345,513 (297,864)
信徒会計	244,657 (744,520)	30,000 (510,000)	214,657 (234,520)

▶特記事項:

- ◆一般会計: ■ご復活準備金として50,000円支出(行事費)
- 本部分担金の第1回目支払として120,000円支出
- ◆建設会計: ■マイク周りの設備更新で156,000円支出

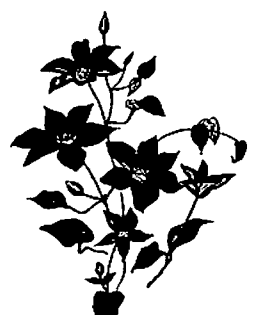
**【2】議事内容:**

- ◎ 聖週間+ご復活:
  - ◆ごミサは上杉神父様にお願いしている。
  - ◆水曜日の侍者は島倉さん、木、金曜日が未定だが位田さんと相談する
  - ◆ミサの謝礼: 上杉神父に4日間お願いすることになるが、5万円お渡しする。
  - ◆鐘の鳴らし方が変わっているので、その徹底を期する。
- ◎ 山崎神父様のNRCご出張: 留守当番は、別途検討する。
- ◎ 教会前庭の側構工事の件:
  - ◆縞板(@1,000)×40枚=4万円の予算でやる。
  - ◆壮年会で錆止め塗料を塗る。 工事実施は壮年会前庭手入れ時の予定。
- ◎ 湘南キリスト教セミナー準備委員会(3月18日)報告(小野寺さん):
  - ◆開催日: 11/17,24, 12/1の3日間
  - ◆テーマ: = 愛と心の幸せを求めて
  - ◆講演者候補 (当番大船教会の委員が討議して、作った案の由): 緒方貞子、晴佐久昌英(神父)、山浦玄嗣(ハルツク)、Sr.景山の4氏。 来月決定する。
- ◎ 聖体奉仕者の研修会に参加(小野寺さん、阿部さん):
  - ◆車椅子の神父様の援助の例は他にも多くある。
  - ◆ご聖体の力、 臨終⇒安らかな顔、・・・ご聖体にまつわる経験を通した話は大いに参考になった。 信徒同士の出会いが良かった。 3回では物足りない感じ。
- ◎ 雑件:
  - ◆カーテンが汚れているので、掃除の時に洗う
  - ◆お聖堂のま下がゴミ置き場状態になっている。 ⇒庭の手入れをやる時にチェックして処置する。
  - ◆物置のガラスが割れたまま ⇒補修する。

**壮年会だより**

<4月22日(日) 9名出席>

- ◎ 委員会報告(4月度)
  - ◆第五地区宣教委員会報告
  - ◆講演の候補者を選定中(緒方さん、晴佐久神父、山浦さん)
- ◎ 議案
  - ◆庭の側溝蓋工事 5/19(土)10:00~実施(連絡で流す) 鉄板の塗装、集会室天井の塗装、新集会室の屋根部分の塗装も行う。
  - ◆5月の聖書朗読 5/6: 東原さん 5/27: 竹内さん 広報原稿: 下村さん(5/27日締め切り)
- ◎ その他
  - ◆第五地区宣教委員会報告 今日、委員会があり、講演者を決める予定 石井さんが副委員長、小野寺さんがセミナーのメインとなっている。 講演会実施の際、お手伝いの協力をお願いしたい。 講演者について、身近な人で、隠れた人材を探して、講演してもらいたい事もあるのではないだろうか。
  - ◆4/8: 山田(作)さん、二俣川教会へ転出。
  - ◆ご復活パーティーの飲み物代少し予算オーバー(11,000円)。 花坂委員長より、お礼の言葉がありました。
  - ◆神父様 NRC出張(5/25~5/28)留守番協力依頼。
  - ◆集会後、本の運搬を実施。



**婦人会だより**

<4月22日(日) 25名出席>

- ◎ 委員会報告
  - ◎ お知らせ事項
    - (1) バザー関連 5月のバザー奉仕日は、連休があるため、5/10(第2木曜日)と5/17(第3木曜日)になりました。 お間違いないようにしてください。
    - (2) 遠足関連 予定どおり5月13日(日)に行ないます。(雨天決行) 申し込み締め切りは、5月6日です。詳細は掲示を見てください。
    - (3) 山田康子様が二俣川教会へ転出されました。 仲村フク様、甲斐ミヨ子様をご入院中です。ご回復をお祈りください。
- 次回例会は5月20日(日)、次回当番はB地区です。

**お知らせ**

**お祝い**

石崎博美様 女児ご出産



**広報 なかわだ**

第269号

今月の予定

委員会	5月 6日
壮年会、婦人会	5月 20日
主の昇天	5月 20日
サロン	5月 13,21日
レジオ	5月 11,18,25日



2001年5月号

中和田カトリック教会  
広報委員会発行  
泉区中田北1丁目9-1  
Tel. (045) 803-6141  
平成13年5月13日



**思い出せたこと ①**

山崎 正俊



どうしたことだろう。本当の教えらしいものに、気がつかされるのに、これほどの手間がかかるのは。私だけのことなのか。そうだとすれば、あまりにも遅れすぎて、あれ、バカスギようがひどい。何が原因なのか。いまになると、考えようがない。不思議でならない。学齡前の、母の早期教育のありようから見るならば、中学に進むまでは、同級生たちに差をつけられていたはずはないような気がする。小学校の1、2年生のときは、教室でのことは復習のようなものだったのだから、特別なことはしていない。3年生の秋に、大きな町に移り、そこでは驚くこともなく、成績がさがっても気にならず、そこでは、すぐれた中学に平気で入学できたし、半ズボンが長ズボンになったことに満足していた程度だったが、英語の先生が大キライになったので、いつまでも、外国語に習熟することはなくて、不自由ではあり、2年生の夏には、胸を患って、体力に劣ることになって、知的には、3年生の頃から読書好きになり、町の図書館での独学が、急速な精神的な成長をさせてくれ、キリスト教に心引かれ、公教要理に毎週かよいはじめ、そちらのほうに力をそそぎ、そのようなことから、別格にあつかわれるようになり、入学試験のないわけから、鉄道学校にしか、父のすすめに従って、行き場所がなく、自然にというよりも、好都合なことに、下の関(シモノセキ)から上京させられ、はじめて、家から離れて自由になり、母のところから、教会にも行ける開放感を満喫する。そして、今田(コンダ)神父様からの受洗。あとで、神奈川県国府津(コウヅ)にある、鉄道の保線事務所(ホセンジムシヨ)に就職することになった。19才の3月31日のこと。

そこで、小田原の教会に行くようになることが、私の人生を、ねじまげさせてくれた。20才。1月10日の入営。戦争で中国に行かされ、病氣。何だかわからぬうちに「現役免除」で、鉄道に復職。毎日の朝と夕方、教会に行けるようになる。何のまちがいか、主任神父さん(マトン神父)からすすめられて、東京の小神学校に、横浜教区から入学することになる。23才の4月。

校長さんは、後の横浜司教になられた、あの、荒井司教様。それから、また、兵役に召集。敗戦。ラテン語は、すこし学んだだけだったのに、いきなり、スコラ哲学をラテン語のテキストで。いろいろの運命のイタズラとしか、判断のしようがないことがあって、思いちがいと、好運がかさなったらしい(ひよっとしたらとしか云いようのないことでしょう)。40才の12月21日に、祝福されてかもしれないようで、バカサかげんがサイワイ(?)して、小田原教会において、司祭に叙階されて、以来43年間(これから後もどれだけか)ご迷惑を、お掛けすることにされた。デオグラチアス。(神様、どうか、よろしく、お責任を、おとりくださいとしか云えませんが)。神様、本当に、全知全能全善であってください。お願いします。(2001.4.28)

**ミサ当番表 (2001年5、6月)**

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
5/6	復活節第四主日	壮年会	保科	6/3	聖霊降臨の主日	壮年会	岩淵
5/13	復活節第五主日	青年会	岩淵	6/10	三位一体の主日	青年会	森田
5/20	復活節第六主日	婦人会B地区	森田	6/17	キリストの聖体	婦人会C地区	保科
5/27	主の昇天	壮年会	保科	6/24	洗者聖ヨハネの誕生	壮年会	岩淵

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏: Tel. 802-6258)迄お申し出下さい。





# 聖体奉仕者研修会に参加して

竹内 広治

山崎神父様から、横浜教区典礼委員会主催の「信徒聖体奉仕者養成のための研修会」が開催されることを伺いました。中和田教会ではあまり馴染みのない催しとっておりました処、受講したらとのお勧めをうけ、些かためらいがありましたが結局、神父様の御意向に従い、小野寺さん、阿部(映)さん、小山(恭)さん方と共々参加致すことに成りました。

研修会は、2001年の1月21日、2月18日、3月18日の各日曜日の午後、カトリック藤沢教会に於て開講されました。当初会場はセンターホールの予定でしたが、聴講者多数ということで大聖堂に会場を移して行なわれました。私にとってこの様な目的の研修は初めての経験で、未知への不安と戸惑い・緊張にまつまされた中での聴講でしたが、お話しが思いがけなく開放的で、時折り笑い声も洩れるほどの明るい雰囲気、お陰で肩の力も抜けてすっかりリラックス出来ました。未整理のままですが各回講話の内容の一部を記しておきたいと思ひます。

## 【第1回】 「秘跡の中心であるミサ」 国井健宏師

主題の中から、幾つか注目すべき事柄を簡潔且つ平易に解説して頂きました。私の漠然たる認識の中に在ったミサが、極めて新鮮な形で甦りました。最近まで私は「何故」という言葉をあまり考えませんでした。教会から守るべきことあれこれを教えられました、**「何故」と疑った事はありませんでした。**

「何故」守らなければならないのか。次のお話しを伺って目から鱗の心境になりました。

### ①「なぜ日曜日に集まるのか? そしてミサを行なうのか?」

それはイエスの「私の記念としてこれを行なえ」という命令だから。教会は初めからイエスのことを忘れないために毎週集まった。そしてイエスのことを忘れないために「主の晩餐」を行なった。これらがミサの始まりです。そして次の月曜日～土曜日迄その生活と実践の中で、イエスを考えイエスを思い出す。衰えてゆく己れの信仰、気力を励まし奮い立たせるのです。精神の充電と申すべきでしょうか。

### ②ミサ——聖体の意味

秘跡は神の働きであって、「聖なる物」ではない。キリストの死と復活によって世が救われることが共同体の記憶と行動を通して「現在の恵み」とされること。(参考文献各種より)

神は「愛である」というメッセージを具体化するため、教会の歴史、ミサの構成、感謝の典礼の構造等のお話しが続き、ミサの中心はあくまでも聖体拝領—交わり、分かち合いそして共同体が一つにまとまることに在ることを力説なさいました。

## 【第2回—1】 「奉仕の種類と意味」 カンペンハウド師

温厚なお人柄そのままのお話しぶり、時々ユーモアを交えて聴衆を飽きさせない。しかし解説の中の大切なポイントに及ぶと、厳しさがその口調に透み出て、その威厳ある風格が頼もしい。

聖体奉仕とは、聖職者不足が原因ではなく、きっかけであることに気づいて欲しい。典礼以外の奉仕は幾らでもある。神の呼びかけ(神父の誘い)、霊的生活への勧めであり、自己の信仰を深める機会を与えられたことを感謝すべきである。従って信徒全員の僕となって働くこと、決してミニ司祭ではないことを自覚すべきである。そして謙遜と沈黙の行為を考えよう。

## 【第2回—2】 「典礼とは」 市岡之俊師

講師の中では一番お若く、これからの教区を背負って活躍なさるであろう方とお見受け致しました。

典礼とは、神との出会いの場、個人的行為をさすのではなく共同体的行為と捉えるべきである。典礼の語源はギリシャ語で「公けの奉仕」と解される。典礼は現実と関わりあい、たえず変化してゆくものである(生きている証拠)。教会において共同体の形が遠のき、いつの間にか信者が祭壇から離れてしまったが、聖職者中心の共同体でなく、神の民に移るべきであり、典礼の刷新がいま一番求められている。信仰と現実が遊離していないか。努めて主日のミサに与り、新しい生きる力を次週に活かそう。

## 【第3回】 「ミサの時と病者訪問の時の聖体奉仕者の実践」 テーハン師と藤沢教会のチーム

初めに、経験豊かなシスターから資料を元に聖体奉仕に関わる用具の説明があり、テーハン師からは聖体奉仕を務めるにあたり、あらゆるケースを想定しての実践的な指導とご注意を頂いた。その後10人位のブロックに纏まり、経験者をリーダーとしてティーチン方式で、実技や訪問時の心得や気配り等を伺い、大層参考になりました。経験された方々のお話しの節々からご苦労が偲ばれましたが、今後も続けたいと希望されておられるのを伺うと、人知を超えた格別なお恵みが、その人の心を揺り動かすのか。中和田教会は、山崎神父様がお元気になられたので、聖体奉仕以外のお手伝いを皆様で考えましょう。

振り返り思えば、今回いたく感銘したことは、講話の後に行なわれたグループ毎の分かち合いが研修会を大いに盛り上げたことだと思ひます。中和田の皆様には語らいの場、分かち合いの席でお話し致します。



# 横浜教区婦人同志会に関わって

阿部 映子

横浜教区婦人同志会第46回総会が、5月17日(木)に開催されます。

現在、神奈川県・静岡県合わせて51の教会がこの会に所属しております。中和田教会には16名の会員がいらっしゃいますが、もっと入会していただければと思ひ、同志会の目的や活動を紹介させていただきます。

**目的:** この会は、横浜教区のカトリック婦人が互いに励みあい、助け合って、自己の成聖に努めると共に、家庭と社会においてキリスト教精神を広める活動をする。

— これは、先日司牧書簡で発表されました『すべての信者の交わり』の項目の中に書かれている「お互いにそれぞれの任務・責任・義務を分かち合って、ひとつの使命を果たす共同体になること」に当てはまると思ひます。

**活動:** ♣ 福祉への寄付

♣ 横浜教区老齢司祭のための援助金提供(これらの資金集めのため、古切手販売、食料品販売、手芸品制作販売などを行ないます)

♣ 会員の親睦としての遠足や観劇会の実施

♣ 黙想会の実施

**指導司祭:** 細井保路神父(山手教会協力司祭、みこころ幼稚園・聖母幼稚園園長)



同志会に入会し、年に一度の総会に出席するくらいだった私が、当時の濱尾司教様のご意向で発足する信徒養成チームのスタッフを探しているのに参加してはというお誘いを受けたのが6年前でした。丁度、信仰面で何かしてみたいと考えていた時期でしたので、神様のお招きと受けとめ、気軽に参加しました。

しかし、一緒に活動するスタッフの方々の熱心で深い信仰や知識にびっくりし、羨ましくなりました。自分の信仰の薄さ、狭さなどに気づかされ、2000年までのつもりが、終ることなく今も続いております。

また、各教会での活動、その中での婦人会のあり方など様々で、皆で意見を交換できますのは、私にとって大変よい勉強です。

神様は一人ひとりそれぞれに素晴らしいタレントを与えられていることに驚き、神の働きの偉大さに気づかされ、今は真剣に取り組んでいます。

先日もある役員が「神と心から向き合っている時、神の愛を感じることもある」と話されました。その時、神を遠くから、または下から見つめている自分に気づきました。神を真正面からとらえ、向き合う姿勢が足りなかったことが、いま私の心に響いております。

神の愛を見出すために、これからもお役に立てればと思っております。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。



## 小谷さんハーモニカ大熱演!!

小谷さんが、3月3日、横浜戸塚Y's MEN's CLUB (YMCAの一組織)にてハーモニカによるクラシック演奏を披露なさいました。「まるでコンサートに行ったよう」と大好評を博した様子を『横浜戸塚Y's MEN's CLUB会報 4月号』より転載させていただきます。

『今回のメインの一つは、加藤氏の隣人で、84才になられる小谷徳爾さんのハーモニカ演奏。氏は「100名の大オーケストラが演奏する名曲でも、作曲者は一人ではないか。それなら愛器ハーモニカでもクラシック演奏は不可能ではない。」とのお考えからクラシック—筋に今日まで演奏を続けてきています。毎日の練習も欠かさず、今日もこのために練習していらっしゃったとか。演奏曲目は「美しき青きドナウ」と「ウィーンわが夢の町」の2曲にアンコール曲で「ハンガリア狂詩曲第2番ハ短調」の3曲を8本のハーモニカを駆使し、音の強弱も確かに、お年を忘れさせる演奏に大拍手でした。』

